

海辺

ウルトラ木魚の寺



法蔵院

五劫山

<https://houzoin.or.jp>

TEL 046-848-0154

五劫山 法蔵院 阿弥陀寺 由緒 沿革

五四世位職 照譽政雄記す

当寺は元久元年(西暦一二〇四年 土御門天皇の御代 源実朝の頃)天台宗の耆宿

※聖覚法印の高弟 明円上人により開創され、後、法然上人の教えを

信奉して浄土宗に改められたと伝えられております。(史実不詳)

元 京都 総本山 知恩院の直末でしたが、貞享年中(一六八六年頃)鎌倉
光明寺の末寺となったようです。

由緒によりますと、弘治・永禄の頃(一五五六～五八年)房総を掌握していた里見氏が勢力拡大のために、小田原 北条氏との抗争で、三浦侵略を繰返し、その戦場となり兵火のために、諸堂宇は灰燼に帰されました。その際、里見氏は三浦城の攻略が出来ないまま、当寺の仏像、梵鐘等を持ち去りましたが、途中海が荒れて仏像を海中に投げ捨てて逃げ帰りました。

この仏像は三浦 菊名の里に流れ着き、無事当寺に帰ることが出来。その縁で菊名の里に、現在も檀家数拾戸があります。そのお檀家の便利を計って、建立したのが永楽寺であると伝えられております。

北条氏は当寺の諸堂宇の焼失を嘆き学問所をここに移建して改築し 九間半・七間半の本堂を建立しました。

その後、元禄十二年(一六九九年)総門が建立され、何度か再建されておりますが、龍の彫刻は創建当初のもので「荒れ狂う波間に龍を配し、その裏には梅と二羽の雉が彫られております」この龍は時化の夜に、海上を泳いで対岸の房州(千葉県)に渡るといふ伝説があり、そのため、龍の左眼には「目打ち」として五寸釘が打たれていると伝えられております。一説に 左甚五郎(一六三四年亡)作との説もあります。



嘉永年間(一八四七年)鎌倉光明寺の山門改築の際、旧山門を移築して建立したといわれる山門(間口七間 奥行二間の楼門)がありました。

元 子院として山内に 雲光院と真珠院が、末寺に、往生院・円乗院・永楽寺・霊川寺・長沢 浄慶寺などがありました。

関東大震災にて、総門と庫裏を残して全壊。本堂の古材を売却して、山門の古材にて大正十二年に仮本堂を建立。その後昭和四七年に本堂の再建、昭和五五年庫裏、昭和六十年客殿、昭和六十三年に総門が再建され現在に至っております。平成十八年四月晋山式、法然上人八百年大遠忌を勤修。

年中行事に 正月元旦 修正会、一月二十三日 御忌法要、春季彼岸中日法要五月八日 花祭り、八月一七日 施餓鬼法要、秋季彼岸中日法要、十一月八日・九日 十夜法要等があります。

また毎月の、お経の勉強会、ご詠歌と、お檀家様と交流をいただいております。

特に 十夜法要は、鎌倉光明寺第八世親譽祐崇上人が後土御門天皇の勅許を頂いて奉修されました「鎌倉光明寺の十夜法要(一四九五年)」を、その後 長井 不断寺・三崎 光念寺・当山の三カ寺にお許しをいただいて勤修されはじめた因縁の深い法要です。その故か、三浦三市(武山不動縁日・宮田の神事相撲)の一つとしてその名が知られ大変賑やかに勤められております。

* 聖覚法印(仁安二年・1167-1135)。法然上人のお弟子の中でも、よく上人の念仏の教えを理解し、「御往生の後疑をたれの人にか決すべしと、上人にとひたてまつりけるに、聖覚法印わが心をしれりとの給へり」(法然上人行状繪図)とあるように、すぐれた念仏の行者として過ごされた方です。親鸞聖人も生涯よき先輩と仰ぎ、師の著されました『唯信鈔』(承久3-1221 宗祖49)を、お写しになられたり(寛喜2 1230 宗祖58)、そのお心を広く有縁の方々にお勧めしております。



五劫山法蔵院



/ごこうざんほうぞういん

お寺には 山号、院号、寺号、と三つの名前がついています。
当寺のそれぞれの名前は五劫山法蔵院阿弥陀寺です。
いずれの名前を取るか決まりはありません
当寺は法蔵院と院号を呼称しています。



[ライトアップの様子](#)



樹木葬・合同墓ご案内

法蔵院 樹木葬

検索

[住職おすすめ！
周辺グルメ&スポット](#)



スノーボード



[Sakura](#)



[Ryusho](#)



ペット墓ご案内

法蔵院 ペット墓

検索

ウルトラ木魚

2021.9.17 安置

- 材質 「楠」
- サイズ 高さ 20cm×幅 30cm×奥行 40cm



木魚をたたくバイは
ハヤタ隊員が所属する
科学特捜隊のマーク
です

ウルトラ木魚 世界に3つ!

仏壇職人でありデザイナーとしても活躍されている愛知県幸田町の「都築仏壇店」の2代目都築数明氏（つづきかずあき/写真右側）の手によって生み出された「ウルトラ木魚」。
以下 都築氏からのメッセージです

木材は楠を使用しております。木魚の制作では一般的な材料です。木魚の匂いを嗅いでもらおうと分かるのですが、虫よけの効果がある良い香りがします。また適度に固く粘りがあるので割れにくいので、長く使う木魚に使用しております。

制作のきっかけは、円谷プロ50周年のイベントの時に50人のアーティストの中に入れていただけたことです。

その中で僕が提案したのが「ウルトラ木魚」になります。理由はウルトラマン35話「怪獣墓場」という回で今まで倒した怪獣を供養するシーンがあります。その中にお坊さんと共に木魚が出てきます。きっと、この映像を作った監督も子ども達に命の大切さを伝えたかったのだと思い、アート作品としてウルトラ木魚が誕生しました。

ウルトラマンの本編の中で怪獣供養というシーンがあったため商品化された物です。

- ウルトラ木魚 1 福井県 安楽寺様
- ウルトラ木魚 2 愛知県 大法寺様
- ウルトラ木魚 3 法蔵院所有

お寺は葬儀、法事をするところ
もちろんその通りです。
でも法蔵院に行ったら「ウルトラマンの
木魚があった!」「楽しいね!」
そんな思いで安置しました。
ぜひ写真撮影に来てください!
「南無シュワッチ!」

白い木魚は
世界に
1つ!



ウルトラ木魚誕生について



コラム

木魚の起源

僧侶が法要などで、「ポクポク」と一定の間隔でリズムをとりながら打ち鳴らす木魚。

一見すると魚とは似ても似つかない形をしていますが、その模様をよく見てみると、魚の鱗が掘られていて、そこに「木魚」の名の由来がうかがえます。

魚を彫るのは、「昼夜目を閉じない魚のように、怠らず常に精進しなさい」との戒めからといわれます。

木魚の起源は、僧侶たちの起床や集合の合図のために打たれた版木(吊り下げられた四角形や六角形の木の板)にあるとされています。その後、細長く魚の形に彫り上げられた魚版(魚鼓)が生まれますが、より良い音が出るようにと中をくり抜き丸くするなどの工夫がなされ、中国の明代には現在の木魚に近いものが作られたようです。

日本では、江戸時代、黄檗宗の宗祖・隠元禅師(1592~1673)が伝えられました。浄土宗でお念仏に用いたのは、江戸時代中期頃からとされています。



法蔵院の大木魚